

## ヒラメ漁獲量の動向と稚魚の出現状況

### 1. 2024年のヒラメの漁獲状況

茨城県におけるヒラメの漁獲量は、2011年以降増加傾向でしたが、2015年の597トンピークに減少傾向に転じました。2024年は166トンで、前年(270トン)と比較すると減少しましたが、漁獲量は東日本大震災以前と同程度で推移しています(図1)。

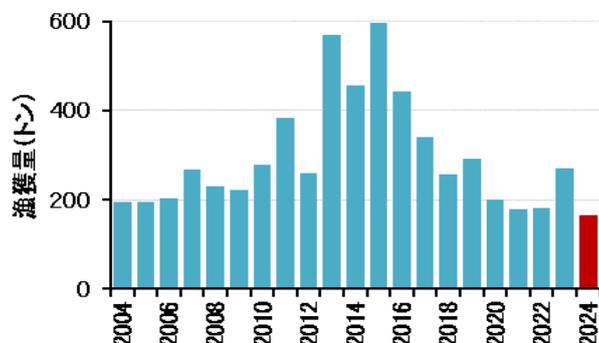


図1. 過去20年の茨城県のヒラメ漁獲量の推移(1~12月、属地集計)。

### 2. 2024年生まれの稚魚の出現状況

水産資源の動向は、漁獲状況に加えて、産卵量や仔稚魚の生き残りに関わる環境条件等が影響します。当场では、その年に生まれたヒラメ稚魚の加入量を推定するため、4~12月に月1回、銚田市玉田沖(距岸0.25~2.0マイル、水深約6~20m)で分布密度を調査しています。昨年生まれの稚魚は1年後には約30cmに成長し、漁獲されるようになります。

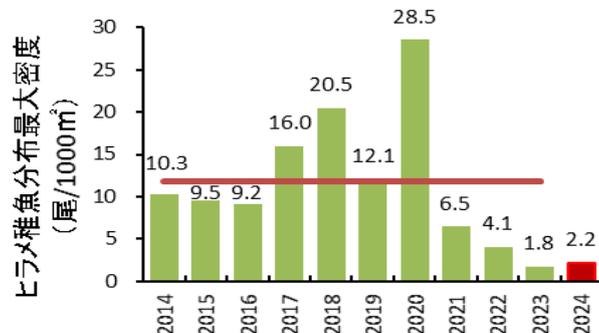


図2. 玉田沖におけるヒラメ稚魚の最大分布密度の経年推移。横線は過去10年の最大分布密度の平均値(尾/1,000m²)を示す。

2024年におけるヒラメ稚魚の最大分布密度は2.2尾/1,000m²で、前年(1.8尾)よりやや上向きましたが、過去10年の最大分布密度の平均値(11.8尾)を下回り、稚魚の分布密度は低い結果となりました(図2)。

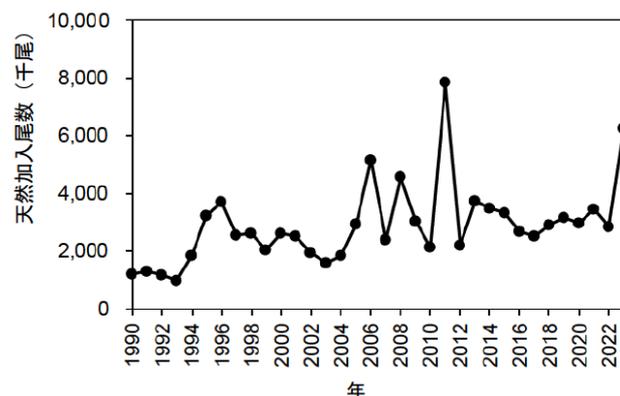


図3. 太平洋北部系群における1990~2023年の天然加入尾数(1歳魚)の推移。※1

一方で、国の資源評価によると、本県のヒラメを含む「ヒラメ太平洋北部系群」は2010年に卓越年級群が発生し、2011年に1歳魚が大量加入しました※1(図3)。それ以降は低調な加入が続いていましたが、2023年は前年を上回る比較的良好な加入があったと推定されています。

2010年の卓越年級群は翌年以降に漁獲加入し、2015年にかけての漁獲量の増加(図1)に貢献しました。当场の調査における稚魚の分布密度は低い結果となりましたが、2023年の1歳魚は多いと推定されることから、今後のヒラメ資源状況に着目していきます。

(定着性資源部 多賀、綿引)

※1 令和6(2024)年度ヒラメ太平洋北部系群の資源評価。(詳細版(速報版))  
[https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries\\_resources/meeting/stock\\_assessment\\_meeting/2024/files/sa2024-sc02/fra-sa2024-sc02-03.pdf](https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries_resources/meeting/stock_assessment_meeting/2024/files/sa2024-sc02/fra-sa2024-sc02-03.pdf)